



イスラエルという国
パレスチナ巡礼④

かつてパレスチナと
呼ばれた地には多くの
アラブ人(パレスチナ
人)が住んでいた。今、
その地のほとんどがい
民となった。その数は約



「嘆きの壁」は壁に触れながら祈るため背の高さまで黒ずんでいる

五百万人といわれる。確かにパレスチナの地にイスラエルの国家があった。しかし、それは紀元前のことである。その象徴ともいえるのがエルサレムにある「嘆きの壁」である。紀元前に建てられたユダヤ教の神殿の一部で、神殿はローマ軍によって破壊された。ユダヤ人は紀元七〇年にローマ軍に敗れ、世界各地に離散する。この地に約二千年後に再びユダヤ人の国家、イスラエルが建国されたのはなぜだろう。

ヨーロッパを旅すると、各地でユダヤ人と隔離したゲットーに出会う。イエス・キリストを処刑したユダヤ人はキリスト教国の多いヨーロッパで差別されていた。そんな時代背景をもとに、十九世紀末ごろから離散していたユダヤ人の間で「シオニズム」というパレスチナにユダヤ人国家を建設しようという運動が盛んになり、多くのユダヤ人がパレスチナに住むようになった。そしてナチスドイツのホロコーストで六百万人が犠牲になつて拒否権

ヨーロッパを旅すると、各地でユダヤ人と隔離したゲットーに出会う。イエス・キリストを処刑したユダヤ人はキリスト教国の多いヨーロッパで差別されていた。そんな時代背景をもとに、十九世紀末ごろから離散していたユダヤ人の間で「シオニズム」というパレスチナにユダヤ人国家を建設しようという運動が盛んになり、多くのユダヤ人がパレスチナに住むようになった。そしてナチスドイツのホロコーストで六百万人が犠牲になつて拒否権



第二次大戦後の一九四七年の国連総会で、イスラエル建国のためパレスチナを分割する決議案が可決され、イスラエル建国が決定づけられた。私にはこれが理解できない。各国が対等であるべき国連の場でアラブ諸国の反対を押し切つて多数決で決めることだろうか？大勢の住んでいた土地を分割とはいへ、奪う権利が国連にあるのだろうか。例えば、今は中国の一部のチベット自治区、チベット仏教を信じるチベット人の国を持つことは彼らの悲願である。この自治区が国連の決定で独立国家となら、そこ

は認めていない。一九九三年のイスラエルとパレスチナのオスロ合意も、パレスチナはイスラエル領のパレスチナ自治区のままである。今回、パレスチナを訪れ、パレスチナ自治区の中にイスラエル入植地が増え続けている現実を見た。歴史は勝者・強者の視点で語られるが、かつて弱者・被害者であったユダヤ民族は今や強者・加害者となつていない空しい気持ちになった。